

＝ 賀 正 ＝

<活動の一時休止にともない、休刊していましたが一年振りの発行です。あらためてご愛読の程を>

●主な活動の記録 (10月～12月)

10月6日(土) 森林体験講座 奈良阪元明天皇陵隣接平城宮跡特別保存地区

奈良市地球温暖化防止対策地域協議会の主催で、公募による親子ずれ他一般の参加者 26 名で開催。当クラブの 4 名が参加し、森林環境学習・竹伐り作業体験・竹クラフトの指導を行った。この間栗拾いや、協議会で準備された、バームクーヘンづくり、旬当てゲーム(野菜・果物の旬を当てるもの)やバームクーヘン・茹で栗の試食を楽しんだ。



森林環境教育



竹伐り作業体験



バームクーヘン作り

10月13日(土) 再開第一回定例活動 森林作業安全講習会

約 30 名が定刻に参集。理事長より本講習会開催の趣旨・意義の説明後、講師として奈良県森林組合連合会から派遣願った上西氏を紹介。午前中は、料理体験館内において、資料をもとに坐学。まず刈払機の正しい取り扱い方、作業手順、災害事例につき解りやすくかつ的確に解説頂いた。次にチェーンソーに関し同様の説明並びに、正しい伐倒の方法・かかり木の処理方法を教示願ひ、質疑応答。午後は、近くのヒノキ林において、選木・ロープワーク・チルホールの扱いの説明後、受け口・追い口・クサビの使い方を手順を追って解説を受けながら伐り倒した。非常に懇切丁寧な指導に会員は大いに満足し、今後の作業を安全にしていくにあたり大いに参考になった。講習会終了後、木炭の袋詰と、ジャブジャブ池の土砂上げの二手に分かれ小一時間の作業を実施。土砂上げは子どもたちが楽しんでいる池の大半が先月の大雨で流れ込んだ土砂で埋まっており、これの原状回復作業。水を含んだ土砂を岸に上げるのは思いの外重労働で、約 10 分作業・5 分休憩の繰り返しがヤットだった。



講義風景



受け口作り



ジャブジャブ池の土砂上げ

10月18日(木) クラフト指導 矢田山遊びの森

県立奈良西養護学校の生徒 20 名弱が、雨天にもかかわらず、学校から徒歩で到着。クラブ員 4 名が指導にあたった。リーダーから手順・注意事項の説明を受け、4 班に分かれ作品づくりに挑戦。まず、ノコギリで木を切り一人一

個ずつ輪切し、マーカーで各自名前を書き名札を作り首に掛けた。ついで竹を思い思いの長さに切り、貯金箱・花瓶等を作り、最後に紙ヤスリで丁寧に磨き上げ完成。



名札づくり



竹を切る



作品の磨き上げ

10月20日(土) クラフト指導 矢田山遊びの森

奈良キリスト教会付属幼稚園「リトルファンファン」の園児約 25 名とその兄弟姉妹・保護者が参加。当地での種々の野外活動の一環として木の輪切り・小枝を使ってのクラフトづくりを会員 3 名で指導。輪切りには、動物の絵を描いたり、木の実や小さな輪切りを貼り付け立体的に作り上げているのもあった。小枝では先をとんがらせ、少し色付けをしてのエンピツくんを作り、輪切りと同様ヒモをつけ、首から得意気にぶら下げていた。



注意を良く聞いて



見本を見て何作るかな



作品を手に手に

10月27日(土) クラフト指導 「エコフェスタ2012 in まほろば」

橿原市地球温暖化対策地域協議会(20 団体)及びエコフェスタ協力団体(29 グループ)主催で橿原文化会館前広場で開催。参加団体の中部農林振興事務所からの依頼で、当クラブより 3 名と同所職員数名がクラフトを指導。前年と同じく竹笛とモクマルづくりを体験してもらった。モクマルづくりはリョウブ他雑木を輪切りにした大・中・小の材料を使い、見本の「くま」をまねて作ったり、少し変えて「コアラ」に。孫のためにと「ばいきんまん」を作るおばあさんもいた。竹笛は里山に進出している竹・ササを使い竹筒中央に穴を開けた本体に、ササで作った吹き口を組み合わせ、笛が鳴る位置を確認して接着するもので、苦労しながらも楽しんでいた。体験した子どもは竹笛 70 名、モクマルは 90 名と盛況であった。

10月27日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

同日各地で行われたイベント参加・支援が重なり、参加者は子ども 2 名を含め 16 名。

午前中は野鳥の森の下草刈り・柿とり及び前回伐採の檜の玉切り処理の後、柿を分配。午後は芝生広場のジャブジャブ池の砂上げ作業を前回に続いて実施した。

10月29日(月) クラフト指導 佐保川バンビーホーム

奈良市地球温暖化対策地域協議会の主催する環境出前講座の一環として、学童保育所である同ホームで、当クラブ員 5 名が学童 16 名とその職員に竹・木を使ってのクラフトを指導。学童は 1 年生から 6 年生までと作るもの、そのスピードはさまざまながら、竹笛・木工クラフトづくりに取り組んだ。竹笛には子どもたちがリコーダーからの発想からか、いくつかの穴を開けて指で押さえながら音の変化を楽しむという新しい遊び方の発見があった。



説明を聞く



材料の物色

11月9.~10日 紀伊半島三県森林ボランティア交流大会

12回目の今年の当番県、三重の南伊勢町で開催され、三県より18団体・60名弱が参集。当県よりは当クラブ員10名の他、4団体8名が参加。開会式・来賓祝辞に続き、今回のテーマでもある“海・川・森を結ぶもの”と題して海の博物館石原館長による講演、質疑応答があった。ついで参加者の交流と連帯を深めるためグループに分かれてのワークショップ、取り纏めを発表。夕食・懇親会を通じ、日頃の活動内容・課題・悩み等につき意見交換を行った。翌日は来年の遷宮に備え準備の進む伊勢神宮内宮・外宮を参拝。この間、用材として200年の檜の育成を目指している“神宮の森”を同宮職員の案内で見学。今回久しぶりにその間伐材が一部に使われるとのこと。最後に全員で記念撮影のあとそれぞれの帰途についた。



記念講演



ワークショップ



神宮の森



記念撮影

11月10日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

同日、紀伊半島三県森林ボランティア交流大会・全国育樹祭のイベントが重なり、この日参加したメンバーは8名だったが、企業参加のワタミ(株)8名(和歌山・大阪から)・タバコメーカー3名(神戸)のいずれも遠方からの参加あり、総勢19名での活動。午前中は、野鳥の森植栽地でのツボ刈りと干し柿用の柿採りの後、他の植栽地を散策。午後は、当クラブで焼いた炭を料理体験館で使用してもらうための小袋詰めと、クラフトの材料用にドングリ拾いをしたが、残念ながら異常気象で不作か、動物の侵入のためか昨年に比し収穫は非常に乏しかった。企業の皆さんの参加で、もりの木々も会員も元気をもらい、快晴にも恵まれ大いに英気を養った。皆さんとの再会を期待しつつ解散。

11月24日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

24名(新入1名を含む)が参加したが、同日当地で県主催の森林ボランティア向け安全技術研修に10名が受講するため、14名での活動。午前は、天平の森(みんなの森の最も奥)植栽地での草刈り作業。放置棚田跡地かつ前日の雨もあり、かなりぬかるんだ所が多く、足元に注意を払いながらの作業だったが、昼前にはスッキリとして気分も爽快。午後は、炭窯周辺の廃材の処理・片付けし解散。研修は4時近くまで続いた。

12月2日(日) 自主活動 矢田山遊びの森

自主活動の再開第一回目として、まほろば展望台下西側で人工林に入り込んだ竹を景観保全と人工林保全の観点から、来春よりこれらの竹を伐採する作業に取り組むにあたり、アクセスの整備を兼ねて竹伐りを新人も加わった7名で実施。竹は半端な量ではないが、作業後は少し空も広がりヒノキ林にも明るさが戻った。切取った竹の

一部はクラフト(ミニ門松・花瓶づくり)に利用の予定。

12月8日(土) 定例活動 総会 矢田山遊びの森

20数名が参加。午前中、大半は植栽地”天平の森”での下草刈り。一部は作業道の拡幅整備と15日に奈良北高校で林業作業体験後実施のクラフト指導のための材料集めを行った。昼一番以前よりの予告どおり、24年度総会を開催。委任状も含め定足数を満たしていることを確認後理事長挨拶、議長選出し、議事の説明・質疑に入った。理事長は、本クラブ前身も含め設立以来のモットーである安全に楽しい活動とするよう全員の協力をあらためて要請。特に安全の確保を最重要課題として、今年度のスタートにあたり全員で県森連より講師を招き森林作業安全講習の受講から始め、先月には人数は10名と限られたが、県主催の安全技術研修に参加。今後も継続的に受講する計画。楽しい活動にするべく予め全員に実施のアンケートを集約し、四つの部会を順次立ち上げ全員が最低一つの部会に入り、それぞれの部会が企画立案・スケジュール化し会を運営していくこととするとの発表があった。部会は、作業・機会、クラフト、お楽しみ会、広報。議案である、23年度事業報告・決算、24年度事業計画・予算、役員改正、定款変更は全て賛成多数の拍手で原案通り可決された。その他として、今年度からあらたに取組む竹の伐採活動に関し、来春一般の参加者を募って作業予定並びに花王助成事業にするべく申請中との経過報告と懸案の名簿、内容を限定し作成することの賛同を得て閉会。

12月15日(土) 森林作業体験 奈良北高等学校

早朝から同校2年生約50名と、先生並びに育友会の多数が参加、当クラブ員10名が指導にあたった。夜来の雨も、明け方には何とか止んだものの、林内がぬかるんでいることもあり、スケジュールの前半と後半を入替え、まず弓道場横の駐車・輪場で、当理事長の挨拶を兼ねてのクラブの紹介に続き、日月講師による森林環境学習を実施。地球温暖化防止を中心とした森林の役割、森を守り育てる大切さを京都議定書・COP18カタル会議の内容も踏まえ講義。クラフトとして近づく正月用に竹と森の恵みを使ってのミニ門松づくり。次いで、グラウンド周辺の学校林に移り、5班に分かれそれぞれクラブ員が間伐の意義・作業手順を説明し、全員がノコギリで順次伐倒・枝払い・玉切り作業を体験。作業の後、育友会から差し入れのパンとジュースをおいしく頂き昼前に予定を終了。午後からは、残ったクラブ員で、過日同林で実施した間伐の材を炭焼きに利用するため、枝払い・玉切り作業を行った。



ミニ門松づくり



引き倒し



枝払い

12月22日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

本年最後の活動日ながら、雨天のため参加者は18名に止まった。定刻に元気に準備体操でスタート。予定していた植栽地の草刈りは中止し、午前中はチェーンソーの整備、倉庫備品の整理と来年三月の炭焼きに備えての炭窯の整備を手分けして行った。昼食時、女性に朝から準備願った熱いノンアルコール甘酒で本年無事に活動が出来たことに感謝し、また来年も皆で元気に活動出来ることを祈って理事長の発声で乾杯。しばし歓談後は、ミニ門松づくりと午前から続いていた炭窯の整備。2時過ぎには「良いお年を！」とお互いに声をかけ合ってそれぞれの家路についた。